

和牛の産次間採胚技術を学会で発表

10 月 11 日、大阪府立大学で開催された獣医学術近畿地区学会で碓高原牧場職員が「黒毛和種における産次間採胚技術」と題して成果を発表しました。

牛の採胚（受精卵の採取）は、1 頭につき年間 3、4 回を複数年実施しますが、長期間の採取で繁殖能力が低下して、正常な受精卵が採れにくくなったり、人工授精での受胎がしにくくなったりします。

そこで、碓高原牧場ではそれらの課題を克服するため、採胚を隔年で年間 2 回に留め、採胚しない年には人工授精で受胎させる方法（産次間採胚技術）の確立に取り組み、「碓牧場方式産次間採胚技術」として平成 24 年度から本格実施しています。

参加者からの評価は上々で、受胎しない牛への治療効果など多くの質問がありました。



発表後に参加者の質問に答える職員

畜産センター
碓高原牧場